

東京書籍の小学校用書写教科書「新編 新しい書写」では、中学校と同様に、小学校で身につける知識・技能を「書写のかぎ」として示しています。
この表では、小・中学校で学習する「書写のかぎ」を系統的に整理しました。



	点画の書き方・字形	書くときの動き	仮名の書き方	配列	効果的な書き方・文字文化 ほか
小学校	<p>基本の点画：「横画」「縦画」「左払い」「右払い」「点」「折れ」「曲がり」「反り」</p> <p>字形：外形 点画の長さ 点画の間隔 点画の方向 点画の接し方・交わり方 組み立て方（左右・上下・たれ・よう・かまえ） 文字の中心</p>	<p>筆順 点画のつながり 書く速さ</p>	<p>「折れ（平仮名）」 「曲がり（平仮名）」 「結び（平仮名）」</p>	<p>行の中心 文字の大きさ 字間・行間</p>	<p>姿勢・持ち方 筆記具・用紙</p> <div style="border: 1px solid purple; padding: 5px;"> <p>文字といっしょに</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆コラム ◆書き初めをしよう ◆書いて味わおう ほか </div>
中学校	<p>1年 点画の書き方と字形の整え方 (p.14)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本の点画の書き方 字形と配列を整える書き方 		<p>1年 平仮名の書き方と字形 (p.18)</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字や片仮名よりも丸みをつけて書く。 点画のつながりを意識して、滑らかに書く。 外形を意識して書く。 	<p>1年 点画の書き方と字形の整え方 (p.14)</p> <ul style="list-style-type: none"> 字形と配列を整える書き方 <p>1年 文字の大きさと配列 (p.20)</p> <ul style="list-style-type: none"> 行の中心に文字の中心をそろえる。 仮名は、やや小さめに書く。 字間と行間はそれぞれそろえ、行間は字間よりも広く取る。 用紙の上下・左右に適切な余白を取る。 用紙に合った適切な文字の大きさを考える。 	<p>2年 楷書と行書の使い分け (p.63)</p> <ul style="list-style-type: none"> 楷書と行書には、それぞれ次のような特徴がある。 楷書…誰にでも正確に伝わる文字が書ける。 行書…速く滑らかに読みやすい文字が書ける。 書体は、場面や目的に応じて、次のような観点で使い分ける。 ・読む相手 ・読みやすさ ・書式 ・書く速さ ・書く文字の量 ・受ける印象の違い など <p>3年 身の回りの文字の目的と工夫 (p.73)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの文字には、使われる目的があり、目的に応じた工夫がされている。 手書き文字と活字を使い分けたり、書体、色、配列、筆記具などを工夫したりして、効果的に伝えている。
中学校	<p>1年 点画の連続 (p.28)</p> <ul style="list-style-type: none"> 行書では、速く滑らかな動きで書くために、点画が連続することがある。 <p>①筆脈の実線化 筆脈が実線になって連続する。</p> <p>②直接連続 点画の終筆と次の点画の始筆がつながる。</p>	<p>1年 筆脈 (p.26)</p> <ul style="list-style-type: none"> 点画と点画のつながりを「筆脈」という。行書で書くときは筆脈を意識しよう。 	<p>2年 行書と仮名の調和 (p.50)</p> <ul style="list-style-type: none"> 行書に平仮名を交えて書くときは、行書に調和するように、平仮名も筆圧の変化や筆脈に気をつけて、つながりを意識して書く。 	<p>2年 文字の大きさと配列 (p.54)</p> <ul style="list-style-type: none"> 楷書と同じように、次のような点に気をつける。 行の中心に文字の中心をそろえる。 画数の少ない漢字や仮名は、やや小さめに書く。 字間と行間はそれぞれそろえ、行間は字間よりも広く取る。 用紙の上下・左右に適切な余白を取る。 用紙に合った適切な文字の大きさを考える。 	<p>3年 手書き文字の特徴 (p.76)</p> <ul style="list-style-type: none"> 親しみを感じやすい。 書き手の気持ちや意図が伝わりやすい。 筆記具と用材があれば、その場で書くことができる。 文字の大きさや配列を変えたり、記号や図表を添えたりするなど、分かりやすく伝える工夫がしやすい。 <p>3年 現代につながる文字の役割 (p.79)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字は昔も現代も役割を持って使われており、私たちの暮らしに欠かせないものである。 <p>3年 効果的な書き方の工夫 (p.81)</p> <ul style="list-style-type: none"> ノートなどを効果的に取るためには、次の三つの観点がある。
中学校	<p>1年 点画の変化 (p.30)</p> <ul style="list-style-type: none"> 行書では、速く滑らかな動きで書くために、点画の方向や形が変化することがある。 	<p>2年 筆順の変化 (p.48)</p> <ul style="list-style-type: none"> 行書では、速く滑らかな動きで書くために、筆順が変化することがある。 	<p>2年 行書に調和する仮名 (p.52)</p> <ul style="list-style-type: none"> 点や線が連続することがある。 始筆・終筆の方向が変化することがある。 終筆の筆使いが変化することがある。 点や線の一部が省略されることがある。 	<p>3年 効果的な書き方の工夫 (p.81)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①情報のまとまり…情報のまとまりが、ひと目で分かるようにする。 ・見出しを目立たせる。(大きさ・太さ・記号の使用など) ・大きなまとまりは、行を空けたりページを替えたりして、分ける。 ・小さなまとまりは、行頭位置をそろえたり箇条書きにしたりする。 ・図表は、内容との関係が分かる位置に配置する。 ②重要な部分…重要な部分を目立たせる。 ・下線を引く、囲む、色ペンで印をつけるなどする。 ③ブロック分け…あとから書き足すための余白を、あらかじめ確保しておく。 ・行を空ける、ノートに線を引くなどする。 	<div style="border: 1px solid purple; padding: 5px;"> <p>文字といっしょに</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆コラム ◆手書き文字と活字 文字の移り変わり いろは歌 ◆伝統的な用具・用材 筆記具の使い分け ◆書の古典——今に生きる書 ◆書き初めをしよう(1～3年) ◆書いて味わおう(1～3年) </div>